

稲美町地域公共交通計画（案）に係る意見募集実施結果一覧表

協議事項①

No.	ご意見	町の考え方
1	検討内容について、不明箇所が多く内容が理解できない。	計画では8つの施策・事業を設定しており、詳細な事業内容や評価指標等を記載しています。
2	記録部分と素案の関係が、不明であると思う。	計画では、公共交通活性化協議会において、本町の概況と公共交通をとりまく現状を把握し、今後の課題を抽出したうえで、課題の解決に向けた公共交通体系の方向性を示しています。
3	当初から、「デマンドありき」のまとめに終始しているように感じられます。	「路線バス」を公共交通の軸とし、幹線交通軸に集まる形で「地域内交通（デマンド型乗合タクシー）」を運行することとしており、連携していくことが町の持続可能な公共交通体系の整備に必要であると考えます。
4	稲美町の公共交通については、長年の懸案事項であり「やっと検討の端緒」についたばかりで、もっと根本的な検討が必要ではありませんか。 行政や商工会、議会が早くに気付いていたら、「本社機能の転出もなかった」のではないのでしょうか？	計画では本町の概況と公共交通をとりまく現状を把握し、今後の課題を抽出したうえで、課題の解決に向けた公共交通体系の方向性を示しています。 計画の推進に際しては、住民や交通事業者、行政が一体となって計画実現を目指すとともに、交通関係部局だけでなく、関係部局との連携を図りながら、総合的に計画を推進していきます。
5	稲美町は、過去から「農業の町」とした政策だったと思います。各住宅には少なくとも「複数台」の自動車がありますよね。このような状況下で「高齢になった」からといって「車の予約・解約」までして利用したいという利用者が多いのか疑問です。もっと簡便で、利用しやすいシステムを考える必要があると思います。	今後新たな需要が見込まれる地域に対しては、新たな交通手段について、交通需要を見据えながら検討するほか、新たな移動サービスなどの新技術についても今後検討していきます。
6	先行している近隣都市の交通体系の調査・検証が出来ているのですか。その体系と「デマンド」の比較検討が「過去の記録にはないですね。」また、そのコスト比較も掲載されていません。記録のバックグラウンドとして（検討資料）掲載すべきです。これで公平な判断を下すには無理があると思います。如何でしょうか？	「あいのりいなみ」の運行については、「町内アクセス検討会」からデマンド型乗合タクシー方式が稲美町に最もふさわしいとの提案を受けており、以後実施に向けた検討を行い、令和2年12月から社会実験として運行を開始しました。今回の運行で高齢者や移動が困難な人の移動手段を確保することができたことや、今回のアンケート調査などからも、ご利用の皆様から一定の評価をいただいております。また、今後の高齢化の推移を鑑みますと、更なる利用者の増加も見込まれるところです。

No.	ご意見	町の考え方
7	<p>「デマンド」の利用者は「高齢者等」に限っているのですか。この一部の利用者みみのアンケートで「結果」が導かれていると思います。それなら、町内の高齢者すべてに意見を求める必要があるのでは・・・。</p> <p>約1400万円余りの町の助成金と、現在支給されている「タクシー券」等の将来的な金額面での比較はできているのですか。この検討資料も見当たりません。本当に検討されているのか疑問。国からの助成金(300万円)は永年ですか。助成金の期間はいつまでですか？永年であることはないでしょう。すると、今後は持ち出しが多くなると思います。そこで考えられることは、だれもが、気軽に利用できる方策を考える事ではないですか。安い負担も大切ですが、応分の負担も必要です。</p> <p>本当に「コミバス」「ミニバス」の運行の検討も必要で、JR駅までの範囲を含む運行を考えるべきではありませんか。これからは、「広域行政が主体」になるはずでしょう。稲美町はモノの本によると「消滅都市のひとつ」ですね。今のうちに将来への投資をすべきと思います。交通の委託者も神姫バス等に「コミバス」等の運行をお願いし、町民みんなが公共交通を利用していくことで、神姫バス等、町内のタクシー会社も残っていくのではないのでしょうか。それによる収益も「デマンド」以上の利用価値を見出せると思います。</p>	<p>アンケート調査は、16歳以上の稲美町在住の住民(5,000票)など、対象者ごとに抽出して実施しているため、高齢者に限定したものではありません。</p> <p>なお、「あいのりいなみ」の運行については、「町内アクセス検討会」からデマンド型乗合タクシー方式が稲美町に最もふさわしいとの提案を受けており、以後実施に向けた検討を行い、令和2年12月から社会実験として運行を開始しました。今回の運行で高齢者や移動が困難な人の移動手段を確保することができたことや、今回のアンケート調査などからも、ご利用の皆様から一定の評価をいただいております。また、今後の高齢化の推移を鑑みますと、更なる利用者の増加も見込まれるところです。</p>
8	<p>もっと踏み込んだ「問題意識を以て」検討する必要があります。住民の費用負担を「ゼロ」にすることは「行政の責務」ではないはずです。</p> <p>これからは、「応分の負担」により「みんなで支えあう必要がある」と思います。</p>	<p>基本理念を「ともに支え 未来につなぐ いなみの公共交通」としており、住民と行政が協働で進めることで、地域の活力あふれる持続可能な公共交通を目指します。</p>